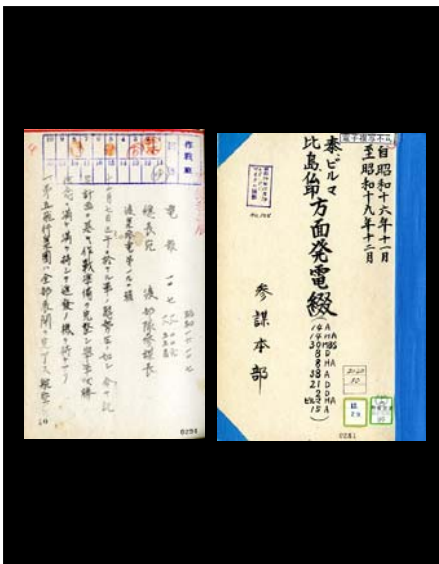


.....「史料紹介コーナー」.....

平成27年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 ^{まえだ まさみ} 前田 正實 1892～1953年 》
 —奈良県出身の陸軍中將—



泰、ビルマ、比島、仏印方面発電綴 (登録番号：中央-作戦指導重要電報-90)

前田正實中將は、大正2年12月、陸軍士官学校(25期)を卒業後、参謀本部作戦課員(大尉)としてフィリピン各地を歩き、情報の収集に努めました。この時の経験を買われた前田中將は、昭和16年11月6日、フィリピン攻略にあたる第14軍参謀長に任命されます。この史料は「泰、ビルマ、比島、仏印方面発電綴(昭和16年11月～昭和19年12月)」で、各部隊から大本營に宛てた電報が綴られています。このうち開戦前日の昭和16年12月7日、前田第14軍参謀長から大本營(参謀総長)に宛てた電報には、「今や既定計画ニ基キ作戦準備ヲ完整シ挙軍必勝信念ニ満チ 満ヲ持シテ進発ノ機ヲ待チアリ」と、開戦を翌日に控えた第14軍の緊迫した様子が報告されています。



「バタアン」半島に於ける第14軍の戦闘 (登録番号：比島-進攻-2)

開戦にあたり前田中將は、敵野戦軍主力の撃滅とマニラ占領のどちらを優先するのかという問題を提起します。これは明治31年の米西戦争で、スペイン軍がマニラを放棄してバターン半島にこもった戦史に立脚したものでした。これに対し大本營は、速やかにマニラを攻略することを要望します。昭和17年1月2日、第14軍は予定より早くマニラを占領しますが、米比軍はマニラを放棄しバターン半島やコレヒドール島に後退、5月7日に降伏するまで、日本軍は苦戦を強いられます。この史料は、当時第14軍参謀であった佐藤徳太郎少佐(のち中佐)が、その後陸軍大学校教官となり、昭和18年度第1学年学生に対する教育資料として作成した「『バタアン』半島ニ於ケル第14軍ノ戦闘」で、第1次、第2次バターン作戦における第14軍と米比軍の戦闘状況などが詳述されています。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影こともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
 防衛研究所企画部企画調整課
 専用線：8-67-6522、6588 (史料紹介コーナーのみ6668)
 外線：03-3713-5912
 FAX：03-3713-6149 ※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>